

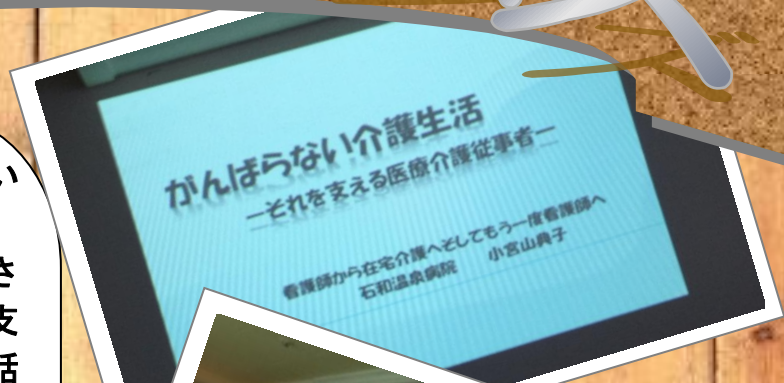
ブレックタイムズ

9月28日(土)に第10回家族会を開催いたしました。

今回は在宅支援室室長の小宮山典子さんに「がんばらない介護生活—それを支える医療介護従事者—」をテーマにお話しして頂きました。

参加者は患者さん3名とスタッフだけでしたが、介護経験のある小宮山さんの言葉の端々から、既成概念で介護を考えてはいけないことに気づかされました。

「不自由な状態でも出来ることを一緒に考えて欲しい」と医療者に向けられた言葉からは、本人の生きる意欲と役割を見出し、本人の自尊心を認めてあげることが、在宅で生活する上で大切であると感じます。



また介護を決して一人で抱え込まず、楽に介護することの大切さを話してくれました。近所のお茶飲み友達や飼っている動物たちのことを例に挙げ、「専門的な知識がなくても、実際に介護することができなくても、ただそばにいてくれるだけで立派な役割を持つ」との言葉は胸にストーンと入ってきました。

「そこにいてくれて、話をしてくれているだけで、介護者は楽になれる…」そういう周囲の助けを借りながら、家に閉じこもること無く、今までに近い生活を介護者もすること、決して無理せず介護すること、そういうことが大事だと。

患者さんだけでなく、家族に対しても支援をしていくこと…それを今後も家族会で実践していきたいと思っています。

原田

-第10号-
平成25年11月

